

須賀の宮

古事記 上卷

それから、この速須佐之男命は、御棲居の御殿を御造りになるべき
適當の場所を、出雲国の内に探し求めなさいましたが、須我といふ処
においでになりました、「此地に来たらば、わたくしの気分が清々し
くなつた」と仰せられて、やがて此の地に御殿を建て、御住ひなさ
いますこととなりました。かやうな訳で、此の地を現今でも須賀と云
ふのであります。

此の須佐之男大神が、はじめて須賀の宮殿を御造りになりましたと
きに、其処から雲が立ち騰りましたので、御歌を御咏みになりました。

其の御歌は、

八雲起つ 出雲八重垣 夫妻籠に 八重垣作る 其の八重垣を。

〔雲が起つ、雲が涌き起つ、涌き起つ雲が、作る八重垣、雲の垣、
夫婦棲ませうと八重垣作る、作る雲の垣、其の八重垣よ。〕

そこで、彼の足名椎神を御召し出しになりました、「卿は、わたく
しの居る此の宮殿の事を掌る長官と御成りなさい」と仰せられて、其
の名号を稲田宮主須賀之八耳神と御附け下さいました。

